

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-116128

(P2020-116128A)

(43) 公開日 令和2年8月6日(2020.8.6)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 13/02 (2006.01)	A 4 7 B 13/02	3 B 0 5 3
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	B
	A 4 7 B 13/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2019-9688 (P2019-9688)	(71) 出願人	000001351
(22) 出願日	平成31年1月23日 (2019.1.23)		コクヨ株式会社
特許法第30条第2項適用申請有り (1) 公開日 : 平成30年9月19日 公開場所 : コクヨ東京ショールーム (東京都港区港南1丁目8番35号) 公開者 : コクヨ株式会社 (2) 公開(送信)日 : 平成30年11月15日 公開場所 : コクヨ東京品川SSTオフィス内 (東京都港区港南1丁目2番70号品川シーズンテラス18階) 公開者 : コクヨ株式会社			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
		(74) 代理人	100085338
			弁理士 赤澤 一博
		(72) 発明者	斎藤 嵩
			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内
		(72) 発明者	小倉 広漢
			大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内
		Fターム(参考) 3B053 NN04 NQ07 NR02 NR04	

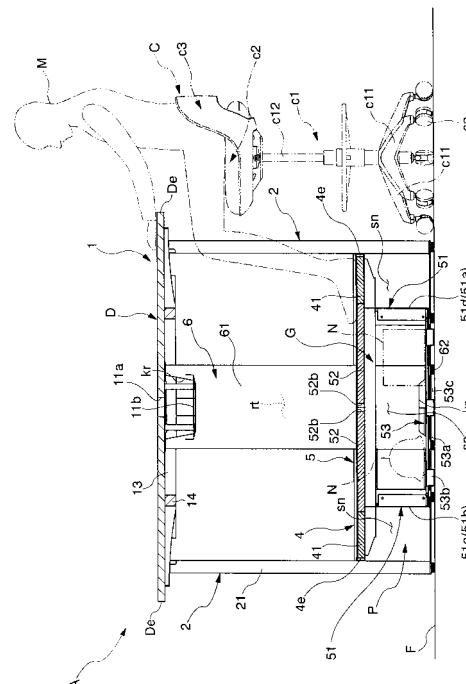
(54) 【発明の名称】 テーブル

(57) 【要約】

【課題】 足置き部の近傍領域を有効に利用し得る構成を有したテーブルを提供する。

【解決手段】 天板1を主脚2により支持させてなるハイテーブルAであり、着座者Mの足を置くことが可能な足置き部4と、足置き部4よりも天板1の中央部に近い位置に配設され内部に物品を収納可能な収納空間spを有した物品収納部5とを備えている。物品収納部5は、床面Fに対して起立し収納空間spを囲む周壁51と、足置き部4に隣接して配設され周壁51により形成された開口部Jを開閉し得る蓋板52とを備えたものとした。

。 【選択図】 図9



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

天板を複数の脚により支持させてなるテーブルであって、
着座者の足を置くことが可能な足置き部と、少なくとも一部が前記足置き部よりも前記天板の中央部に近い位置に配設され内部に物品を収納可能な収納空間を有した物品収納部とを備えたものであり、
前記物品収納部が、床面に対して起立し前記収納空間を囲む周壁と、前記足置き部に隣接して配設され前記周壁により形成された開口部を開閉し得る蓋板とを備えているテーブル。

【請求項 2】

前記天板の上面が、床面から 800 mm～1050 mmの高さに設定されたものである請求項 1 記載のテーブル。

【請求項 3】

前記足置き部、前記周壁、及び、前記足置き部に対面する床面部分により囲まれており椅子の脚羽根が侵入し得る脚羽根進入領域が形成されている請求項 1 又は 2 記載のテーブル。

【請求項 4】

前記蓋板の上面が、前記足置き部の上面と略面一に設定されている請求項 1、2 又は 3 記載のテーブル。

【請求項 5】

前記物品収納部が、前記収納空間の下側を覆う底壁を備えている請求項 1、2、3 又は 4 記載のテーブル。

【請求項 6】

前記天板と床面との間に介設され内部に配線を連通させ得る連通空間を有した配線支柱を備えている請求項 1、2、3、4 又は 5 記載のテーブル。

【請求項 7】

前記複数の脚が、少なくとも前後方向又は左右方向に対をなす脚を含んでなるものであり、
前記対をなす脚の下部間が、板状をなす脚連結パネルにより繋がれているものであり、
前記脚連結パネルの一部が、前記周壁を構成するものである請求項 1、2、3、4、5 又は 6 記載のテーブル。

【請求項 8】

天板を複数の脚により支持させてなるテーブルであって、
着座者の足を置くことが可能な足置き部と、少なくとも一部が前記足置き部よりも前記天板の中央部に近い位置に配設され内部に物品を収納可能な収納空間を有した物品収納部とを備えたものであり、
前記物品収納部が、前記足置き部に隣接して配設された天壁と、この天壁の下に位置し床面に対してスライド移動可能に収容された引き出しとを備えているテーブル。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、オフィス等において好適に用いられるテーブルに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、天板の高さが比較的高い位置に設定されているハイテーブルが知られている（例えば、特許文献 1 を参照）。

【0003】

この種のハイテーブルでは、座の位置が高く設定された専用の椅子（ハイチェア）が使用されることが多い。従来のハイテーブルには、ハイチェアに着座した着座者の快適な利用に供するために、天板よりも下の領域における床面よりも上の位置に、着座者の足を置

10

20

30

40

50

くための足置き部を設けたものもある。

【0004】

ところが、従来のハイテーブルは、足置き部の近傍領域、より具体的に言えば、足置き部よりも下の領域や、着座者から見て足置き部よりも奥方の領域などが有効に活用されておらず、デッドスペース化してしまっているのが実態であった。

【0005】

なお、以上の事情は、必ずしも、天板の高さが比較的高い位置に設定されているハイテーブルに限られるものではなく、一般的なテーブルにおいても同様である。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0006】

【特許文献1】特開2018-079076号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は、以上のような事情に着目してなされたもので、足置き部の近傍領域を有効に利用し得る構成を有したテーブルを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

すなわち、本発明は次の構成をなしている。

20

【0009】

請求項1に係る発明は、天板を複数の脚により支持させてなるテーブルであって、着座者の足を置くことが可能な足置き部と、少なくとも一部が前記足置き部よりも前記天板の中央部に近い位置に配設され内部に物品を収納可能な収納空間を有した物品収納部とを備えたものであり、前記物品収納部が、床面に対して起立し前記収納空間を囲む周壁と、前記足置き部に隣接して配設され前記周壁により形成された開口部を開閉し得る蓋板とを備えているテーブルである。

【0010】

請求項2に係る発明は、前記天板の上面が、床面から800mm～1050mmの高さに設定されたものである請求項1記載のテーブルである。

30

【0011】

請求項3に係る発明は、前記足置き部、前記周壁、及び、前記足置き部に対面する床面部分により囲まれており椅子の脚羽根が侵入し得る脚羽根進入領域が形成されている請求項1又は2記載のテーブルである。

【0012】

請求項4に係る発明は、前記蓋板の上面が、前記足置き部の上面と略面一に設定されている請求項1、2又は3記載のテーブルである。

【0013】

請求項5に係る発明は、前記物品収納部が、前記収納空間の下側を覆う底壁を備えている請求項1、2、3又は4記載のテーブルである。

40

【0014】

請求項6に係る発明は、前記天板と床面との間に介設され内部に配線を連通させ得る連通空間を有した配線支柱を備えている請求項1、2、3、4又は5記載のテーブルである。

【0015】

請求項7に係る発明は、前記複数の脚が、少なくとも前後方向又は左右方向に対をなす脚を含んでなるものであり、前記対をなす脚の下部間が、板状をなす脚連結パネルにより繋がれているものであり、前記脚連結パネルの一部が、前記周壁を構成するものである請求項1、2、3、4、5又は6記載のテーブルである。

【0016】

50

請求項 8 に係る発明は、天板を複数の脚により支持させてなるテーブルであって、着座者の足を置くことが可能な足置き部と、少なくとも一部が前記足置き部よりも前記天板の中央部に近い位置に配設され内部に物品を収納可能な収納空間を有した物品収納部とを備えたものであり、前記物品収納部が、前記足置き部に隣接して配設された天壁と、この天壁の下に位置し床面に対してスライド移動可能に収容された引き出しとを備えているテーブルである。

【発明の効果】

【0017】

以上説明したように本発明によれば、足置き部の近傍領域を有効に利用し得る構成すなわち足置き部の近傍領域に物品収納部を有したテーブルを提供することができる。

10

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図 1】 本発明の一実施形態を示す斜視図。

【図 2】 同実施形態における正面図。

【図 3】 同実施形態における背面図。

【図 4】 同実施形態における平面図。

【図 5】 同実施形態における底面図。

【図 6】 同実施形態における左側面図。

【図 7】 同実施形態における右側面図。

【図 8】 同実施形態における斜視図。

20

【図 9】 図 4 における X-X 線断面図。

【図 10】 図 4 における X-X 線断面図。

【図 11】 同実施形態における斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0019】

以下、本発明の一実施形態を、図 1 ～ 11 を参照して説明する。

【0020】

この実施形態は、本発明を、オフィスにおいて使用されるテーブルたるハイテーブル A に適用したものである。

【0021】

30

ハイテーブル A は、天板 1 の高さを、一般的なテーブルの天板高さよりも高い位置に設定したものである。すなわち、ハイテーブル A は、天板 1 の上面が床面 F から 800 mm ～ 1050 mm の高さに位置するように設定されている。この実施形態では、天板 1 の上面の位置が床面 F から約 1000 mm の高さに設定されたものとなっている。（なお、一般的なテーブルにおける天板の上面の位置は、床面から 670 mm ～ 720 mm に設定されている。）

ハイテーブル A の使用者は、床面 F に対して自立した状態で天板 1 の上面を使用したり、ハイテーブル A に対応させて座 c 2 の位置を高く設定した椅子たるハイチェア C に着座した状態で天板 1 の上面を使用したりできるようになっている。

【0022】

40

なお、図 9、及び、図 10 に示すように、ハイチェア C は、先端部にキャスタ c a を配してなる脚羽根 c 11、及び、当該脚羽根 c 11 の中心部に立設され上下方向に比較的長尺をなす脚支柱 c 12 を有した脚 c 1 と、脚 c 1 に支持された座 c 2 及び背凭れ c 3 とを備えたものである。

【0023】

ハイテーブル A は、天板 1 を、複数の脚たる四本の主脚 2、及び、一本のサイド脚 3 により支持させてなるものである。ハイテーブル A は、ハイチェア C に着座する着座者 M の足を置くことが可能な足置き部 4 と、少なくとも一部が足置き部 4 よりも天板 1 の中央部に近い位置に配設され内部に物品 N を収納可能な収納空間 s p を有した物品収納部 5 と、天板 1 と床面 F との間に介設され内部に配線を連通させ得る連通空間 r t を有した配線支

50

柱 6 とを備えたものである。

【0024】

以下、このハイテーブル A の各構成について説明する。

【0025】

<天板 1>

天板 1 は、図 1 ～ 11 に示すように、その上面が、床面 F から 800 mm ～ 1050 mm の高さに設定され得るものである。天板 1 は、平面視において矩形状をなすメイン天板 D と、メイン天板 D の一端から外方に延出したサイド天板 E とを備えたものである。この実施形態では、メイン天板 D は、第一天板 11 と、第一天板 11 よりも小さな寸法すなわち第一天板 11 の略半分の幅寸法に設定された第二天板 12 とによって構成されている。10

【0026】

第一天板 11、第二天板 12、及び、サイド天板 E の各下面には、各天板 11、12、E を水平姿勢に保持するための複数の支持ビーム 14 が適宜の箇所に添設されている。天板 1 は、天板支持プレート 13 や支持ビーム 14 に支持されることにより、当該天板 1 を構成する第一天板 11 の上面、第二天板 12 の上面、及び、サイド天板 E の上面が、略面一になるように設定されている。

【0027】

メイン天板 D の前後方向中間部には、配線を導入又は導出するための連通孔 11a、12a が設けられている。連通孔 11a、12a の下には、メイン天板 D よりも下方に離間させて配線の一部や電源タップの本体部分等を載置し得る載置台 11b、12b が設けられている。20

【0028】

<脚（主脚 2・サイド脚 3）>

複数の脚である四本の主脚 2 は、図 1 ～ 3、及び、図 5 ～ 11 に示すように、床面 F に対して立設された柱状をなすものである。主脚 2 は、主としてメイン天板 D を支持するものである。主脚 2 の上端部は、ブラケット B を介してメイン天板 D における四ヶ所の角部の下面に取り付けられている。

【0029】

主脚 2 は、上下方向に延びた四角柱状をなす主脚本体 21 と、主脚本体 21 の下端部に螺合進退可能に取り付けられたアジャスタ 22 とを備えてなる。30

【0030】

前後に対をなす主脚 2 の下部間には、床面 F に対して起立した姿勢をなす脚連結パネル P が設けられている。換言すれば、対をなす前後の主脚 2 における下部間は、脚連結パネル P により繋がれている。前後方向に対をなす主脚 2 は、左右の二箇所に配されている。

【0031】

脚である一本のサイド脚 3 は、主としてサイド天板 E を支持するものである。サイド脚 3 の上端部は、ブラケット B を介してサイド天板 E における下面に取り付けられている。サイド脚 3 は、上下方向に延びた四角柱状をなすサイド脚本体 31 と、サイド脚本体 31 の下端部に螺合進退可能に取り付けられたアジャスタ 32 とを備えてなる。40

【0032】

<足置き部 4>

足置き部 4 は、主としてハイチェア C に着座した着座者の足が載せ置かれる部位をなす。足置き部 4 は、図 1 ～ 3、図 5、及び、図 8 ～ 11 に示すように、メイン天板 D の下に設けられた略水平板状をなしたものである。足置き部 4 は、床面 F から離れた位置すなわち床面 F よりも上に設けられている。足置き部 4 は、床面 F から約 280 mm の高さに配設されている。

【0033】

足置き部 4 は、メイン天板 D における前後の使用端縁 D e に沿うように天板 1 の下に配 50

設されている。足置き部 4 の外方端縁 4 e は、側面視においてメイン天板 D における前後の使用端縁 D e よりも内側（すなわちメイン天板 D の中央部側）に位置するように設定されている。

【0034】

足置き部 4 は、物品収納部 5 を構成する周壁 5 1 と、周壁 5 1 における前周壁部 5 1 a 及び後周壁部 5 1 b の上に前後方向に長手をなすように架設された支持プレート G の先端部と、前後の主脚 2 の下部間を繋ぐ脚連結パネル P の前部分及び後部分に支持されて略水平の姿勢が保持されている。

【0035】

足置き部 4 は、物品収納部 5 から外方すなわち前方向及び後方向に向けて片持ち的に延出した形態をなしている。なお、この実施形態では、足置き部 4 は、複数すなわち三枚の略水平な足置き板 4 1 を左右方向に並設することにより構成されている。

【0036】

<物品収納部 5>

物品収納部 5 は、図 1～3、及び、図 5～11 に示すように、内部に設けた収納空間 s p に種々の物品 N を収容し得るように構成されている。物品収納部 5 は、床面 F に対して起立し収納空間 s p を略矩形状に囲む周壁 5 1 と、足置き部 4 に隣接して配設され周壁 5 1 により形成された開口部 J を開閉し得る蓋板 5 2 と、周壁 5 1 よりも内側すなわち周壁 5 1 により圍繞された範囲内に配設され収納空間 s p の下側を覆う底壁 5 3 とを備えている。

【0037】

換言すれば、物品収納部 5 は、物品 N が収納される収納空間 s p の上を覆う構成要素である蓋板 5 2 と、収納空間 s p の外周を覆う構成要素である周壁 5 1 と、収納空間 s p の下を覆う構成要素である底壁 5 3 とを有しているものである。

【0038】

周壁 5 1 は、壁状をなす前周壁部 5 1 a 及び後周壁部 5 1 b と、前周壁部 5 1 a 及び後周壁部 5 1 b の側端部間に配された壁状をなす左右の側周壁部 5 1 c とを備えている。前周壁部 5 1 a 及び後周壁部 5 1 b は、それぞれ複数すなわち三枚の周壁形成板 5 1 d、5 1 e を左右方向に並設することにより構成されている。

【0039】

左右の側周壁部 5 1 c は、脚連結パネル P の中間部により構成されている。換言すれば、一対の主脚 2 間を繋ぐ脚連結パネル P の一部が、物品収納部 5 の周壁 5 1 を構成したものとなっている。つまり、主脚 2 の強度を向上させるための脚連結パネル P の一部が、物品収納部 5 の周壁 5 1 を兼ねたものとなっている。

【0040】

蓋板 5 2 は、周壁 5 1 により形成された開口部 J を閉塞し得る略水平板状のものである。この実施形態では、複数すなわち六枚の蓋板 5 2 により開口部 J を開閉できるように構成されている。六枚の蓋板 5 2 は、それぞれ別個独立に開閉できるようになっている。各蓋板 5 2 には、使用者が手を掛けて開閉作業を行い易くするための手掛け部 5 2 b が設けられている。この実施形態における手掛け部 5 2 b は、蓋板 5 2 の一端部に形成された切欠部分により構成されている。

【0041】

なお、手掛け部 5 2 b は、種々のものを適用することができるものであり、切欠部分に限られるものではない。例えば、手掛け部 5 2 b が、蓋板 5 2 に穿設した孔であってもよいし、蓋板 5 2 に取り付けられる部品（例えば、手掛け部分を有した部品等。）であってもよい。

【0042】

蓋板 5 2 は、その周縁部が周壁 5 1 の上端縁、脚連結パネル P の上端部、及び、周壁 5 1 に架設された支持プレート G に支持され得るものとなっている。蓋板 5 2 は、開口部 J を閉塞した状態において当該蓋板 5 2 の上面が、足置き部 4 の上面と略面一になるように

位置設定されている。つまり、蓋板 5 2 の上面は、足置き部 4 の上面と略面一をなしているため、着座者 M の足置き面としても有効に機能し得るものとなっている。換言すれば、蓋板 5 2 は、収納空間 s p を開閉する機能を発揮するだけでなく足置き部 4 の奥方に連設された延長足置き機能も発揮し得るものとなっている。

【0043】

足置き部 4 の上面と物品収納部 5 における蓋板 5 2 の上面には、床面 F と同様の図示しないシート状の表皮材が貼り設けられるようになっている。

【0044】

なお、支持プレート G は、図 8、及び、図 1 1 に示すように、比較的短寸をなす支持プレート支持脚 H により床面 F 上に上下方向に微調整可能に支持されている。支持プレート支持脚 H は、支持プレート支持脚本体 h 1 と、支持プレート支持脚本体 h 1 の下端部に螺合進退可能に取り付けられたアジャスタ h 2 とを備えている。

【0045】

底壁 5 3 は、周壁 5 1 内の床面 F 上に載置されるものである。底壁 5 3 は、収納空間 s p に収納された物品 N の下に敷かれるものである。底壁 5 3 は、略水平な板状をなす底壁本体 5 3 a と、底壁本体 5 3 a の底面に下方に向けて突設された複数すなわち三つの短寸脚 5 3 b とを備えたものである。三つの短寸脚 5 3 b は左右方向に延びる態様をなし底壁本体 5 3 a に対して前後方向に一定の間隔をあけて配設されている。隣接する短寸脚 5 3 b 間の離間空間は、配線を連通させるための配線連通路 5 3 c として使用し得るようになっている。

【0046】

この実施形態では、周壁 5 1 内に複数の底壁 5 3 すなわち三枚の底壁 5 3 が所定の間隔をあけて床面 F 上に配されている。換言すれば、隣接する底壁 5 3 間には、配線を通過させることができるように床面 F と収納空間 s p との間を連通し得る開口 K が形成されている。なお、開口 K には、床面 F に対して起立する支持プレート支持脚 H の下端部や、配線支柱 6 の下端部が配設され得るものとなっている。

【0047】

ハイテーブル A は、図 9、及び、図 1 0 に示すように、足置き部 4、周壁 5 1、及び、足置き部 4 の下面に対面する床面 F 部分により略コ字状に囲まれハイチェア C の脚羽根 c 1 1 が侵入し得る脚羽根進入領域 s n が形成されている。

【0048】

この実施形態では、脚羽根進入領域 s n は、足置き部 4、周壁 5 1 における前周壁部 5 1 a 又は後周壁部 5 1 b、足置き部 4 の下面に対面する床面 F 部分、及び、左右に配された脚連結パネル P により、五面が囲まれてなる空間により構成されている。換言すれば、物品収納部 5 の一端部すなわち前部に設けられた脚羽根進入領域 s n は前方にのみ開放されたものとなっており、物品収納部 5 の他端部すなわち後部に設けられた脚羽根進入領域 s n は後方にのみ開放されたものとなっている。

【0049】

< 配線支柱 6 >

配線支柱 6 は、図 1 ~ 1 1 に示すように、メイン天板 D における前後方向中央部と床面 F との間に介在している。配線支柱 6 は、電源用配線や情報用配線等の種々の配線を床面 F 側から天板 1 側に導くためのものである。また、配線支柱 6 は、天板 1 を支持する補助脚的な役割又は共振抑制の役割を担い得るものである。配線支柱 6 は、略矩形筒状をなし内部に配線を連通させ得る連通空間 r t が形成された配線支柱本体 6 1 と、配線支柱本体 6 1 の下端部に螺合進退可能に取り付けられたアジャスタ 6 2 とを備えたものである。

【0050】

配線支柱本体 6 1 の上端部及び下端部には、配線を配線支柱本体 6 1 内に導入し易くするとともに配線支柱本体 6 1 内の配線を外部に導出し易くするための切欠部 k r が設けられている。

【0051】

以上説明したように、本実施形態に係るハイテーブルAは、天板1を複数の脚である主脚2とサイド脚3により支持させてなるものである。そして、ハイテーブルAは、着座者Mの足を置くことが可能な足置き部4と、足置き部4よりも奥方すなわち天板1の中央部に近い位置に配設され内部に物品Nを収納可能な収納空間spを有した物品収納部5とを備えたものである。物品収納部5は、床面Fに対して起立し収納空間spを囲む周壁51と、足置き部4に隣接して配設され周壁51により形成された開口部Jを開閉し得る蓋板52とを備えている。このため、足置き部4の近傍領域を物品収納部5として有効に利用し得る構成を有したハイテーブルAを提供することができる。

【0052】

すなわち、足置き部4に近い位置に、種々の物品Nを収容し得る物品収納部5を設けているため、種々の物品Nを、使用者の近い位置に配置させることができるものとなっている。

10

【0053】

換言すれば、本件の発明者は、従来のテーブルにおいては使用者に近い位置であるにもかかわらずデッドスペース化していた箇所を有効利用できる方途を見い出すことに成功した。すなわち、本実施形態におけるハイテーブルAでは、物品収納部5を設けることにより足置き部4の近傍を有効利用できるようにしている。このため、物品収納部5の収納空間spに、種々の物品Nを汚れたり損傷したりし難い状態で収容させることができるものとなっている。

【0054】

つまり、従来は、オフィス内において、使用頻度が少ない割に比較的執務者の近くに配置しなければならないような物品Nを保管させる場所を創出し難かったという問題があった。しかしながら、本実施形態におけるハイテーブルAであれば、天板1の下に位置する物品収納部5に比較的大容量の物品Nを収納することができるため、物品Nを保管させる場所の創出が好適に実現され利便性に極めて優れたものとなる。

20

【0055】

また、蓋板52は、足置き部4に隣接して配設され周壁51により形成された開口部Jを開閉し得るものとなっている。このため、物品収納部5の収納空間spに配置された物品Nの出し入れも容易に実行することができるものとなっている。

【0056】

一例として例えば、物品Nが、使用者の手荷物や被服や身の回り品である場合には、必要になった時に、天板1の下に位置する物品収納部5にアクセスして手荷物等を簡単に取り出すことができるものとなっている。

30

【0057】

他の例として例えば、物品Nが、地震等の災害時に用いられる防災用品（例えば、ヘルメットや懐中電灯や非常用飲食料品等）である場合には、災害発生時に天板1の下下肢空間に一時的に避難した流れから、そのまま、退避した箇所の直下に位置している物品収納部5に収容された防災用品に速やかにアクセスすることができるものとなっている。

【0058】

天板1の上面が、床面Fから800mm～1050mmの高さに設定されたものである。換言すれば、ハイテーブルAにおいて物品収納部5を設けたものとなっている。このため、足置き部4と床面Fとの間に一定の空間が形成され易いものとなり、当該足置き部4の近傍に位置させた物品収納部5が物品Nを収容し得る好適な高さ寸法を得易いものとなっている。

40

【0059】

足置き部4、周壁51、及び、足置き部4に対面する床面F部分により囲まれており椅子であるハイチェアCの脚羽根c11が侵入し得る脚羽根進入領域snが形成されている。このため、ハイチェアCの脚羽根c11を脚羽根進入領域snに進入させて、ハイチェアCをハイテーブルAに接近させることができるようになっている。

【0060】

50

蓋板 5 2 の上面が、足置き部 4 の上面と略面一に設定されている。このため、蓋板 5 2 は、足置き部 4 の奥方に位置し延長足置き部分としても機能し得る好適なものとなる。すなわち、蓋板 5 2 の上面が足置き部 4 の上面と略面一に設定されているため、着座者 M の足を足置き部 4 よりも奥方に気兼ねなく伸ばすことができるものとなり、着座者 M の快適な使用に供し得るものとなっている。

【0061】

物品収納部 5 が、収納空間 s p の下側を覆う底壁 5 3 を備えている。このため、収納空間 s p に収容された物品 N の下敷きとして有効に機能し得るとともに、床面 F 上に這わされた配線類と物品 N との接触も好適に回避し得るものとなっている。

【0062】

天板 1 と床面 F との間に介設され内部に配線を連通させ得る連通空間 r t を有した配線支柱 6 を備えている。このため、配線を床面 F 側から天板 1 側に好適に導くことができるのみならず、天板 1 を支持し得る補助脚的な機能を好適に発揮し得るものとなっている。

【0063】

前後方向に対をなす主脚 2 を備えており、対をなす主脚 2 の下部間が、脚連結パネル P により繋がれている。そして、脚連結パネル P の一部が、周壁 5 1 における側周壁部 5 1 c を構成するものとなっている。このため、対をなす前後の主脚 2 が脚連結パネル P により補強され、対をなす主脚 2 が床面 F に対して安定的に起立し得るものとなる。

【0064】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0065】

テーブルは、天板の位置が比較的高く設定されたハイテーブルに限られるものではない。すなわち、テーブルは、天板が一般的な高さに設定されたものであってもよい。

【0066】

テーブルの天板は、種々の形状のものを採用することができる。例えば、テーブルは、矩形状の天板のみを有したものであってもよく、サイド天板やサイド脚を有したものでなくともよいのはもちろんのことである。

【0067】

足置き部は、板状の部材により構成されたものに限られない。例えば、単数又は複数の棒状ないしフレーム状の部材を用いて着座者の足を置くことができるように構成されたものであってもよい。

【0068】

物品収納部は、少なくとも一部が足置き部よりも奥方すなわち天板の中央部に近い位置に配されていればよい。例えば、天板の一侧縁のみを使用端縁に設定したテーブルであれば、反使用端縁と略同じ位置まで物品収納部を延設させてもよい。

【0069】

物品収納部の蓋板は、開口部を完全に閉塞するものには限られず、部分的に閉塞し得るものであればよい。また、蓋板として透明の板材を適用することにより、収納空間を視認可能に構成してもよい。

【0070】

蓋板の上面は、足置き部の上面と略面一に設定されているものでなくともよい。すなわち、蓋板における上面の高さ位置と足置き部における上面の位置とが異なっているものであってもよい。より具体的に言えば、蓋板の上面の高さ位置が足置き部の上面よりも高い位置に設定されているものであってもよいし、蓋板の上面の高さ位置が足置き部の上面よりも低い位置に設定されているものであってもよい。

【0071】

また、蓋板は、平板状のものでなくともよく、全体的又は部分的に曲面状の部分や凹凸状の部分を配してなるものであってもよいのはもちろんのことである。

【0072】

物品収納部は、底壁を備えていないものであってもよい。

10

20

30

40

50

【0073】

物品収納部に收容される物品は収納空間に入り得るものであればどのようなものであってもよい。例えば、着座者の手荷物や被服や身の回り品であってもよいし、災害時に用いられる防災用品（例えば、ヘルメットや懐中電灯や非常用飲食料品等）であってもよい。

【0074】

配線支柱は、テーブルにおける必須の構成ではないことは言うまでもない。また、配線を好適な外観を維持しつつ床面側から天板側に導くために、配線支柱とは異なる構成を採用してもよいのはもちろんのことである。

【0075】

物品収納部が、内部に物品を收容し得る収納空間を有した引き出しを備えたものであってもよい。すなわち、物品収納部が、足置き部に隣接して配設された天壁と、この天壁の下に位置し床面に対して水平方向に移動可能に收容された引き出しとを備えているものであってもよい。天壁は、物品収納部における収納空間の上を覆い得る構成要素をなすものである。引き出しは、物品収納部における収納空間を形成し得るとともに当該収納空間の外周及び下を覆う構成要素をなすものである。このように、物品収納部が、引き出しを備えたものであっても、所期の目的を達成し得るものとなる。

【0076】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【符号の説明】

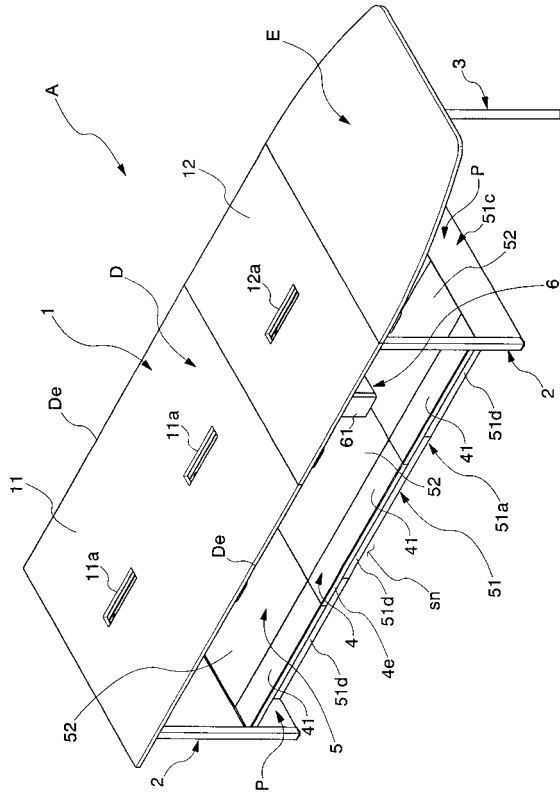
【0077】

- 1 … 天板
- 2 … 主脚
- 4 … 足置き部
- 5 … 物品収納部
- A … ハイテーブル（テーブル）
- N … 物品
- s p … 収納空間

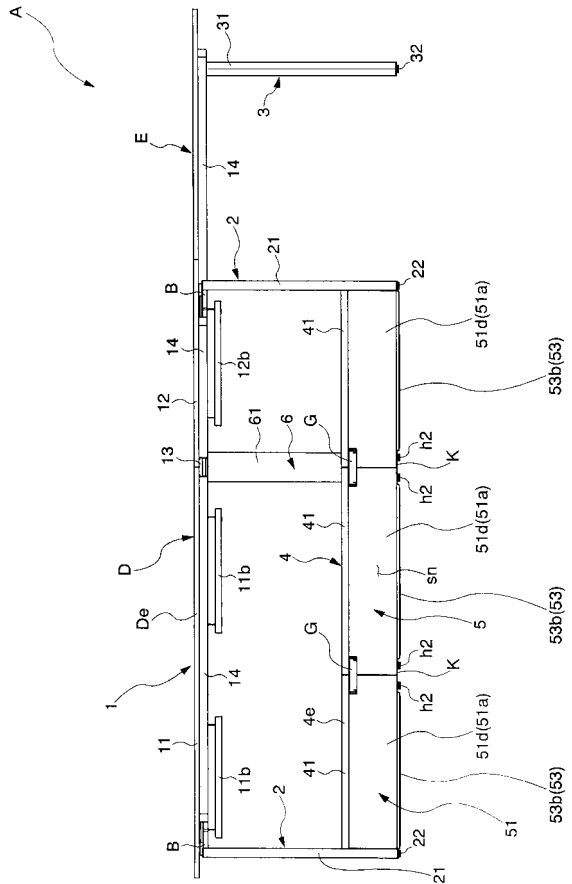
10

20

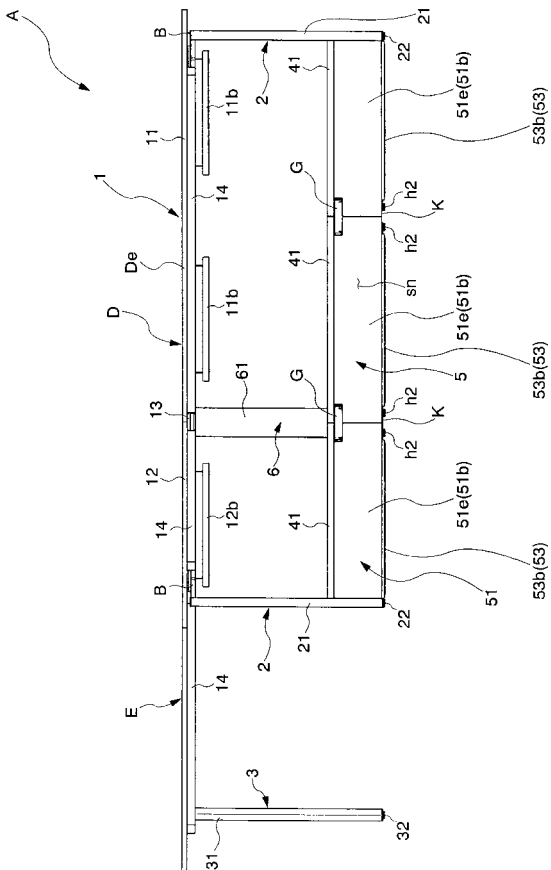
【図 1】



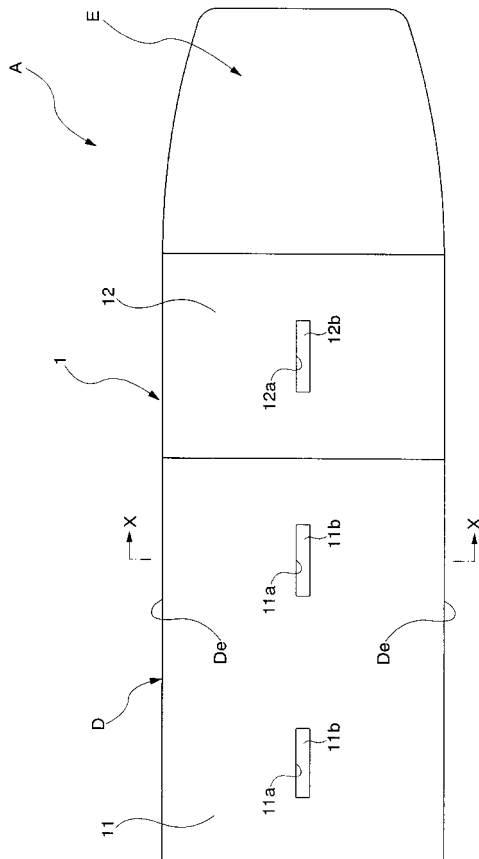
【図 2】



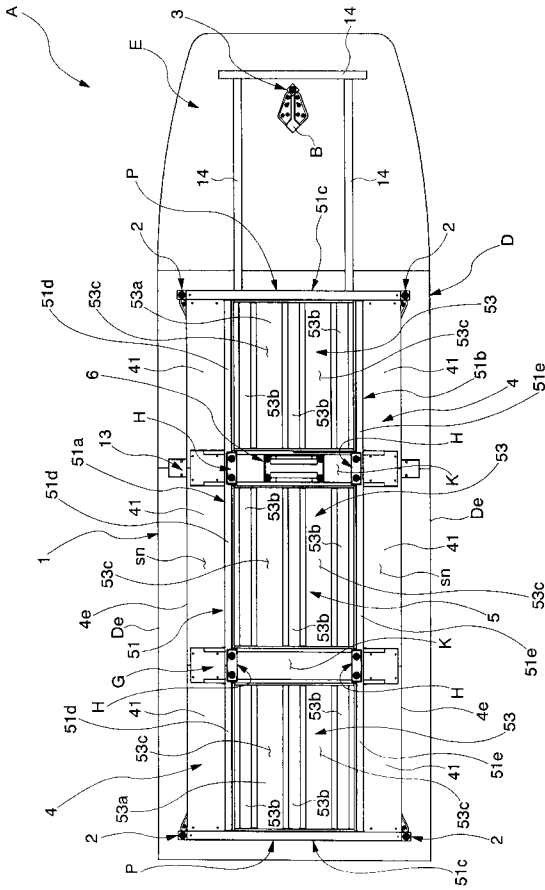
【図 3】



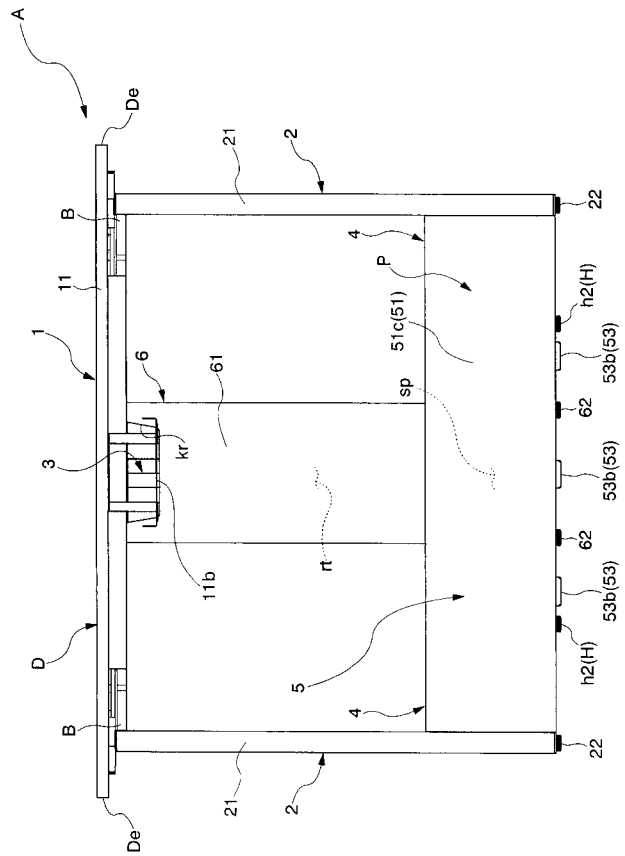
【図 4】



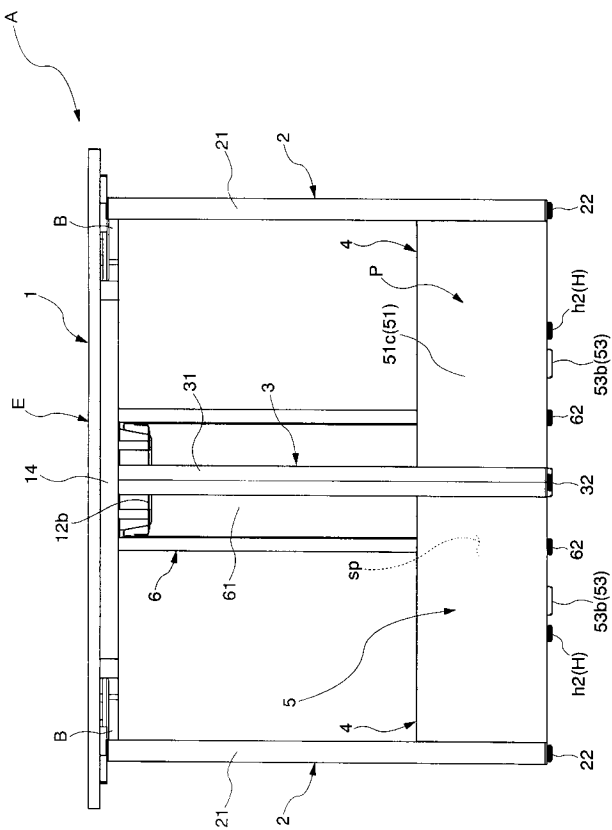
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

